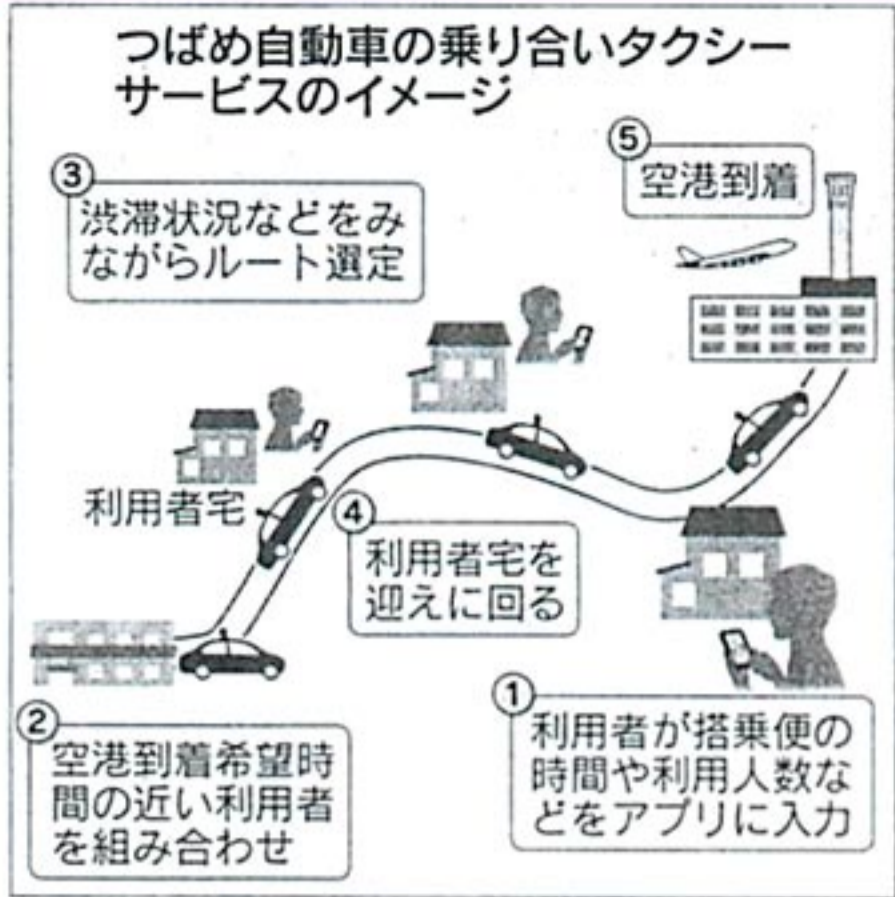


乗り合いタクシー運行

つばめ自が来春 I-T で効率運用

名古屋-中部空港

つばめ自動車(名古屋市)は来年4月から名古屋市内と中部国際空港(セントレア)の間を運行する乗り合いタクシー事業を始める。1人あたりの運賃は通常のタクシー利用の半額以下にとどまる見込みで、名古屋大学などと共同でシステムを開発する。一方、名古屋市内などで空車の最適配置を目指すシステムの検証実験をNTTドコモと開始する。I-T(情報技術)を積極活用し、サービスの拡充を目指す。



つばめ自動車は愛知万博開催時にも乗り合いタクシーを運行した実績がある

乗り合いタクシーは年明けにも中部運輸局に運行を申請する。4台のワンボックスタイプのタクシーを投入する。利用者の自宅などを回って空港に向かう。空港から名古屋市内の利用も可能だ。既存のタクシーの予約アプリに乗り合い機能を

追加。利用希望者はアプリを通じて航空便名や空港への到着希望時間、利用人数などを入力。時間帯の近いほかの利用者と組み合わせる仕組みだ。同時刻帯に3人以上の利用希望者があった時点で運行する。運賃は1人あたり5000円程度を想定。通常のタクシー1台あたりの1万2000円程度(高速道路料金含まず)の半額以下になる。名鉄バスのセントレアムジン(大人1200円)などは上回るが、荷物が多いため空利用には自宅まで車が迎えにくる点をアピールできるとみている。

導入にあたって独自システムを開発する。利用者の乗車希望住所や実際の渋滞の発生状況を踏まえて、効率的な組み合わせや迎車ルートなどを自動ではじき出す。最初の利用者の家に着いたときに次の利用者へ到着予定時間を連絡するなどのサービスも工夫する。

訪日外国人向けのPRにも力を入れる。外国人が目的地などを提示しやすいように、乗り合いタクシーには多言語対応のタブレット端末を導入することも検討する。同空

港の国際線の外国人旅客は15年度に213万人と14年度比で45%増えており、外国人に使ってもらえれば空港から名古屋市内に戻るタクシーの有効活用につながる。(長縄雄輝)

客多い地域 AIで予測

ドコモと実証実験

つばめ自動車は1日、NTTドコモ東海支社と組んで、人の集まりそうな地域を予測しタクシーを効率的に送り込むシステムを実証実験する。

つばめ自動車の実証実験を名古屋市内などで始めると発表。ドコモの持つ人工知能(AI)技術とつばめの運行データや配車システムを活用する。ドライバーのノウハウ頼みだった乗車率の改善につな

げるとみる。これまで空車状態での走行ルートはドライバーの判断に任されていた。このためスキルによって乗客の確保に差が生じていた。移動需要予測を活用することで、経験の少ないドライバーでも効率的に利用者を確保できる

とみている。同社の鍛造品はギ

鍛造品の研究開発を強化する。顧客に納める商品の加工精度の向上につながるという。

碧南に宇宙船開発拠点

PDエアロスペース 23年運航目標

宇宙船開発ベンチャーのPDエアロスペース(名古屋市)は1日、エイチ・アイ・エスと、ANAホールディングスから約5千万円の投資を受け、開発能力を高める。機体の機体に乗せ、低コストで安全な宇宙飛行の



機体はパイロット2人を40億円の達成を掲げる「11スケジュール」と認める資金確保などの課題

碧南に宇宙船開発拠点を運営する名古屋トヨベツ「ミッドランドスクエア」トヨタ自動車が協賛。若者など新たな車の新型車を展示するカフェ「顧客開拓につなげる」。

ミッドランドに期間限定カフェ

25日までの期間限定で、コーヒーなどを販売する。営業は午後3時から午後9時まで。日曜日は車両展示のみとする。現在は新型小型車「タンク」を置いていて、小型SUV(多目的スポーツ車)「C-HR」の発売以降は、同車を展示する。名古屋トヨベツの小栗一朗社長は「当社のお店に来たことのない顧客との接点になる」と期待を示した。

自家培養表皮の保険適用が拡大 J・TECC、増収見込む 富士フイルムホールディングス(HD)傘下のバイオベンチャー、ジャ